

短期間のステロイド使用後の頸部浸出症状を経て受験勉強に集中できた青年期アトピーの経過 (18歳 青年)

症例 ID：001-18-SR | 記録日：2017年3月15日

1. 診断・治療前経過

乳児期からアトピーと食物アレルギーがあり、膝裏と臀部のかゆみ、掻き傷、色素沈着が続きました。高校2年生の夏に首のかゆみが急に強くなりました。

皮膚科で初めてステロイド外用薬を使用し、一時的にかゆみが消えましたが、約2週間後に以前より強いかゆみが出ました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	高校2年生の夏に首へステロイド外用薬を使用しました。喘息に対して抗ヒスタミン薬などを長期間服用していました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	ステロイドは短期間です。
中止時期	高校2年生の冬頃です。
来院前／後	来院前に短期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
高校2年生夏	頸部悪化	首のかゆみが強くなり、ステロイド外用を開始しました。
約2週間後	再燃	外用前より強いかゆみが出ました。
高校2年生2月	治療開始	ステロイドを中止し、治療を開始しました。
治療初期～約6か月	症状の強い時期	首を中心に強いかゆみと浸出液が出て、夜間はガーゼと手袋が必要でした。
約6か月後	変化	かゆみがほぼ消え、色素沈着も薄くなりました。
高校3年後半	生活変化	勉強に集中できるようになり、希望する大学への進学が決まりました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始後に首から浸出液が出て、猛烈なかゆみが続き、就寝時にガーゼと手袋が必要だった時期です。

5. 困りごと

- かゆみにより勉強に集中できない時期がありました。
- 夜間の掻破を防ぐため、首のガーゼと両手の手袋が必要でした。
- 半年間、強いかゆみと浸出液が続きました。

6. 経過のまとめ

治療開始約6か月後にはかゆみがほぼ消え、皮膚の黒ずみも薄くなりました。

高校3年生後半には受験勉強に集中でき、希望する大学への進学が決まりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。